審議会等の会議結果報告

１．会　　議　　名	第 10 回　松阪市政推進会議
２．開 催 日 時	平成 30 年 1 月 23 日（火）午後 3 時 30 分～午後 5 時 15 分
３．開 催 場 所	松阪市役所　議会棟　第 3・4 委員会室
４．出 席 者 氏 名	出席委員：村林守委員、梅村光久委員、髙島信彦委員、中川昇委員、平岡直人委員、米山哲司委員、渡邊幸香委員 欠席委員：酒井由美委員、佐藤祐司委員、西岡裕子委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、村田吉優委員、吉田悦之委員 事 務 局：竹上市長、山路副市長、永作副市長、加藤企画振興部長、刀根経営企画課長、川上政策経営係長
５．公開及び非公開	公開
６．傍 聴 者 数	1 人（内、報道関係 1 社）
７．担　　　　当	松阪市企画振興部　経営企画課 TEL　0598－53－4319 FAX　0598－22－1377 e-mail　kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・事項、議事録は別紙のとおり

第 10 回 松阪市政推進会議　議事録

１．日　時　　平成 30 年 1 月 23 日（火）　午後 3 時 30 分～午後 5 時 15 分
２．場　所　　松阪市役所　議会棟　第 3・4 委員会室
３．出席者　　村林守委員、梅村光久委員、髙島信彦委員、中川昇委員、平岡直人委員、
　　　　　　　米山哲司委員、渡邊幸香委員
　※欠席者　　酒井由美委員、佐藤祐司委員、西岡裕子委員、松浦信男委員、
　　　　　　　三井嬉子委員、村田吉優委員、吉田悦之委員

〔事務局〕竹上市長、山路副市長、永作副市長、加藤企画振興部長、刀根企画振興部経営
　　　　　企画課長、川上企画振興部経営企画課政策経営係長

１　市長あいさつ

竹上市長あいさつ

　あらためまして、こんにちは。新年初めての会合となります。本年もよろしくお願いいたします。

　今日のテーマは、事業の取捨選択についてです。常々「誰のため、何のため」ということを職員に伝えている。最近よく言うことは、昨日と同じ仕事はやめて、新しい時代に向かって一歩を踏み出していかないと、現状維持すらままならないと言っている。非常に残念なことは、1 月 1 日の人口の変化を見てみると、昨年 1 年間で約 1,100 人も減っており、一昨年よりも人口減少が進んでおり、65 歳以上の人口は増えている状況にある。約 600 人が自然減であるが、約 500 人が社会減となっている。就職や進学で転出してしまうケースが多く、これを抑えていかないとまちの元気は取り戻せないと感じている。そのためには、直接的には雇用の確保であるが、それだけでは人は増えていかないと思う。ただ、急がば回れではないが、住みやすいまちを作ることが魅力の発信になると思う。このまちに住んでみたいと思えるまちづくりを真剣に考えていきたい。そのために、若い世代が住みやすいと思える環境を作りたい。雇用の確保も含め、産業の育成にも取り組んでいきたい。予算や人員には限りがあり、事業の取捨選択が重要になってくる。委員の皆さんからのご意見を参考にしながらバージョンアップした取組を進めていきたい。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

◯　会議の公開・非公開の決定

会長）

　本年の第 1 回目、通算第 10 回目の会議となり、第 1 期目の最後の会議となります。本日もよろしくお願いいたします。

早速ですが、本日の会議の公開・非公開を決定する必要がございますが、本日の議題は、「平成 30 年度重点事業について」と「事業の取捨選択について」であります。昨年 12 月に策定されました平成 30 年度から 31 年度の実施計画書に掲載されています重点事業等についての説明と、今後、市政を進めていく上での事業の取捨選択について、委員の皆様からのご意見を頂戴したいと思います。
本日の会議については、個人に関する情報などの非公開情報のご発言はお控えいただくことをお願いしまして、公開させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

（異議なし）

会長）
では、本日も公開で開催します。

２　協議事項
１）平成 30 年度重点事業について

会長）
では、事項書に沿って進めてまいります。
事項書 2 の協議事項　１）平成 30 年度重点事業について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局）
資料に基づき説明。

会長）
事務局より資料の説明をいただきましたが、次の事項　２）事業の取捨選択についてと関係する事項でもありますので、この件ついて竹上市長のお考えをお聞きしたいと思います。
では、竹上市長よろしくお願いします。

市長）
事業の取捨選択についてですが、個々の事業についてどうこう言うわけでなく、力を入れていく事業や継続あるいは縮小していく事業などについて、ご議論いただければと思っている。
平成 30 年度において、一歩踏み出したのが教育施設への投資で、幼・小・中の教室へのエアコンの設置に約 30 億円以上、鎌田中学校の建設にも約 30 億円。平成 29 年度には第三小学校や飯南町の粥見小学校の改修を行っている。改修していかないと、建物の老朽化がひどく、市の財政にとって施設の建て替えが効いてくる。普通、補助金は半額補助が

多いが、教育施設の補助金は5億円程度である。かなり厳しい財政状況の中で取捨選択が必要であると思う。

財政的な話ではあるが、3年に1回、固定資産税の見直しがあり、毎回3億円ほど減少する。バブルがはじけてから、松阪市の地価は下がり続けている。節約すべきところは節約することが必要だと感じているが、それだけでは前に進まないので、集中して投資すべきところに投資をしていきたい。

投資を優先すべきは子育て部門で、子どもたちへの投資は未来への投資であると考えている。ほかの世代への投資も必要であり、各世代が豊かに生活できるような支援を進めていきたい。皆さんからヒントをいただければと思う。

会長）

市長からお話しいただきましたが、何かご意見はございますか。

委員）

全体予算は上がっているのか。新規事業に着手する財源はあるのか。

市長）

予算全体は上がっている。新規事業の予算については、ある程度は確保し、重点プロジェクトは特別枠として扱っている。各部局には厳しい話であるが、2%カットのシーリングをかけている。その分を重点プロジェクトなどの財源としている。

また、有利な起債である合併特例債を借りている。合併特例債は、95%の借金ができて、70%は交付税で返還される。実質は3割の負担で事業ができる。予定では31年度末で終了予定であったが、5年間の延長が国で検討されている。有利な起債を活用しながら投資すべきところに投資している。

小・中などへのエアコンの導入は、合併特例債を活用しないと難しい。実質的な借金を増やさないように考えている。2%カットで新たな原資を生み出して、重点プロジェクトに充てていくこととしている。

委員）

従来の継続事業は、見直しや削減をしているのか。評価が悪くても削減しないのか。

市長）

事業の見直しは行ってはいるが、一度始めた事業はやめにくい現状がある。評価が悪くてもやめにくい。もう少しメリハリをつけていく必要があると感じている。

委員）

注力を注ぐ事業あるいは待ってもらう事業がある。やはり、取捨選択のなかで継続あるいは延伸を検討している。廃止するのは難しいと思うが、市民要望を切り捨てることは難しい。ただ、どれを選択するのか執行部は苦慮しているのではないか。各部局には市民か

らの要望は残っていると思う。それを新規事業と組み合わせて実施すればどうか。評価にあたっては、健全経営を評価してほしい。

委員）
　市民に周知したときに、気のある人はホームページで見るが、気のない人をどう市政に向けるか。市政に対する市民の気持ちをどう市政に向かせるか、方法を考える必要がある。市民目線から見たときに、魅力のある市政を。広報のやり方を市民レベルでできないものか。財源も必要である。

委員）
　政策をどう評価するか。何をもって市民の満足度をはかるのかであるが、市民の属性はたくさんある。個人によっても刻々と変化していくものである。何をもって評価するのか、客観的なものが見つからないのが実情である。市民の満足度を可視化することは難しい。
　情報発信力の高い事業はたくさんあり、積極的に一部の人の利益を抽出したとしてもスポットライトのように一部を照らすだけである。課題が解決したことが見えた時に満足度が上がる。どのように評価するかは、市民の生活の中で自分の意識が変わったときに評価となるものである。

委員）
　施策が、市民にとって満足というより当たり前になってしまうと、生活の中に入り込んでしまい何も変わらないと感じてしまう。必要なことをやってきた積み重ねの上に立っていると思ってもらうことが大事である。どんな方法で積み重ねてきたのかを情報発信することが重要だと思う。

会長）
　竹上市政の特徴は重点プロジェクトに表れていると思う。これをどうやって市民に発信していくか、これが大切だと思う。せっかくトイレを改修しても、市民が知らないと、どこに力を入れているのかわかってもらえない。限られた財源の中で、ここにウエイトを置いて実施したことを強烈に発信するべきである。知恵を使って、インパクトのある発信を。
　また、借金の額そのものではなく、市民の負担を減らしながら未来への投資を覚悟してやっていく。それは借金時計では表れない。その部分も市民にアピールをしてほしい。

委員）
　トイレ等の改修は、すぐに評価してもらえると思うが、苦しい財源で投資したことを伝えると、より評価してもらえる。今の情報発信は地味すぎる。派手にするわけではなく、市民に浸透するように情報発信の工夫が必要である。

委員）
　まちづくりは、人の活力を可視化させるための一つである。人を大切にするということがあらためて着目されている時代である。ゆえに、コミュニティや住民協議会が大切なの

はみんなが思っていることである。コミュニケーションってなんだろうということを深めてほしい。表面だけではなく、人を大切にすることや多様性を理解するなど、丁寧にやることで暮らしやすさは向上すると思う。人を思いやる人が増えれば、学校でも職場でも豊かに暮らせると思う。心に関する話は数値化もしにくいし評価がしにくいが、そういう時代だからこそ深めていってほしい。

委員）
　国が考えている3歳から5歳児の無償化は、待機児童の解消につながり、松阪市の子育て施策の追い風になると思う。
　子どもが減っている現状では、学校施設の統廃合が全国で問題になってきている。学校の配置も問題があり、地理的には不便ではあるが、二つの学校を造るより、通学補助などで利便性が上がったという自治体もある。
　学校の在り方も変わってきている。多様な経験を持った方に学校で授業してもらうなど、先生だけで授業をしている時代ではない。

委員）
　外部の方に授業をお願いする場合、手当などの費用が必要にならないのか。

委員）
　ほぼボランティアである。また、コミュニティスクールへ企業からの出資や、クラウドファンディングでの例もある。
　市内にも様々な方がみえると思う。副市長が社会科の教壇に立ってみるのもいい。実務経験者からの言葉には臨場感がある。著名な学者だけではなく、民間企業の方や行政の方から話を聞くことが大切である。議会に行くのではなく、議員の皆さんが学校に来てもらって話をすると即効性も高まる。子どもから保護者へ話することで、PRにもつながる。時代の流れとともに、教科書を写すだけの授業も変わってくる。

市長）
　今年の秋に市内の5つの高校で話をした。「百聞は一見に如かず」で、高校生の感じていることをあらためて感じた。授業に出かけていくこともやってみたい。

委員）
　市長からみて、若者の考え方はどうだったのか。

市長）
　目指す方向は同じだと感じた。今の高校生は非常に堅実に物事を考えている。どんなまちが良いかと聞いたが、子育てがしやすいとか、交通の便が良いまちなどの答えであった。身の回りの生活環境が整っているまちづくりを求めていた。目指している方向は間違いではないと感じた。

この会から、人が集まっているところに行けばいいとのアドバイスをいただき、平成30年度はPTAを対象に小学校36校を回ろうと思っている。エアコン導入のスケジュールや子ども医療費などの制度改定、3歳から5歳の無償化など、様々なアナウンスをPTAに直接発信する機会としたい。

行政の課題は情報発信だと思っている。ホームページや行政チャンネルを見ている人はほとんどいない。市の情報は広報から取得している人が多いが、これからは減っていくことが予想される。市の広報をアプリ化し、こちらから発信する方法を考えている。より上手に情報発信する方法を考えていきたい。

特に、防災などの安全に関する情報は的確にお知らせしたいが、行政チャンネルを知らない人が多い。根本的なことを解決しないといけない。そのためのミッションとして、文字放送を極力減らし、動画に移行することを考えている。まずは行政チャンネルを知っていただき、見ていただくことが重要だと思っている。

委員）

PTA を回るのはいいが、一つの案として、最後に質問を投げて帰ってくる方法はどうか。PTAの広報を使って、市政に対する意見を集めてもらえるのではないか。

委員）

大学では、松阪在住の大学生同士のつながりがないらしい。松阪在住者で各大学のコミュニティを作ってはどうか。ばらけている若者の活力を束ねるような場づくりはできないか。新しいコミュニティで我がまちを考えてもらう場を作ってはどうか。

市長）

若者の意見は市政になかなか入ってこない。そのような現状から若者クラブを立ち上げた。54人の参加をいただき、最終的には21人から提案をいただいた。提案の中には、すぐに取り入れた提案もある。すでに取り組んでいるような提案もあったが、逆に考えれば市がやっていることが間違っていないことの証明でもある。次年度も取り組んでいきたいと思っている。

吸い上げるスポンジをどう使うかが大事である。発信も大事だが、市民ニーズを吸い上げる広聴も大切にしていきたい。

昨年の成功事例は「おくやみコーナー」である。市長への手紙や窓口などで、すごく感謝の言葉をいただいている。広報の手段として、葬儀社にPRすればほぼすべての対象者に届く。このように広報の手段をいかに見つけられるかが大切であると感じている。

委員）

市からの情報は、公民館や市民センター、住民協議会、自治会を通して地域の皆さんに伝わっていく。まず、公民館や住民協議会などを知ってもらうために、学校が困っているところに顔を出すようにしている。

子ども会には、写真を撮ってグループラインで送るなどし、自分たちで飛び込んでいくようにしている。そこを足掛かりにしながら、松阪市に目を向けてもらえるようになれば

と思っている。自分たちの地域を好きになってもらい、さらに松阪市を好きになってほしいと願っている。

市長）
　市内の各企業から人材不足だとよく聞かされる。特に大きな企業から人材が確保できないと聞かされる。どうやって若者をそこへ導くかが本当に難しい。都会に行きたい子もいれば、松阪にいたい子もたくさんいる。そういう子どもたちの雇用先を確保していきたい。
　また、松阪の使命は南三重の玄関口である。松阪から南の地域では、人口減少が激しい地域もあるが、道路網の整備により通勤圏は広がったので、一緒になって人口減少を食い止めていきたい。みんなが地域で生活できることを実現していきたいと思っている。南三重の各自治体と協力しながら取り組んでいきたい。

委員）
　人を大切にする企業は、豪商とイコールと考えている。今の学生がどのように企業を調べるかというと、ネットの情報のみで調べている。中小企業の良いところが残念ながら見えていない状況にあり、お金やブランド、企業の大きさではなく、違うところの切り口の魅力をうまく発信できると、企業選びの新たな物差しが増えると思う。新しい物差しが、これから求められている豊かさや幸せにつながると思う。ただ、学生が知るすべが無い状況にある。公益や公共をちゃんと理解する「世間よし」の企業が増えて、それを求める若者に可視化されていると双方が出会うことになる。地域志向というものが、郷土愛や愛社精神とくっつき、絆の強い就労に繋がると思う。

会長）
　いい企業活動が人材確保につながり、地域の活性化につながる。「三方よし」の地域づくりになると思う。

　ありがとうございました。
　委員の皆さまからのご意見を参考にしていただき、市政の発展につなげていただければと思います。
　本日の協議事項はすべて終了いたしました。
　では、事務局に進行を戻します。

事務局）
　ありがとうございました。
　会議の冒頭にもご案内させていただきましたが、本日が、第１期の任期内での最後となります。
　竹上市長の意向で、引き続き、この松阪市政推進会議を設置させていただきたいと存じます。
　つきましては、委員の皆様には引き続き本会に参画いただければと思っておりますが、この件について、市長からお話しいただきます。

市長）

本日で今期が終わりますが、来期も引き続き委員をお引き受けいただきたい。この市政推進会議を来年度も設置しますので、よろしくお願いしたい。

事務局）

引き続きお世話をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

あらためて、事務局より委員選出のご案内をさせていただきます。

その節にはよろしくお願い申し上げます。

では、これにて第10回松阪市政推進会議を終了いたします。

ありがとうございました。

≪午後5時15分　終了≫